

CONTENTS

- 戦後60年企画 「沖縄写真館」…………… 2
1950年代その② 都市の復興と暮らし
- 県政フラッシュ…………… 4
- 特集1…………… 6
癒しの島を守ろう「観光の日」・「観光週間」
- 特集2…………… 8
介護保険制度が改正されました
- 特集3…………… 10
戦後60年の節目 恒久平和を祈る
- ハイサイうみとも 海のともだち…………… 12
「タツウミヤッコ」
- ちな〜カこぶ…………… 14
ファゴット奏者 仲原 綾子 さん
- 県のうごき1…………… 16
中国市場へ新たなビジネス展開を図る
- 県のうごき2…………… 17
那覇空港の総合的な調査へのご意見を募集しています！
- 情報ひろば…………… 18
おしらせ
- お届けします! わした便り…………… 20
■ 座間味村 第6回サバニ帆漕レース
■ 下地町 第15回サニツ浜カーニバル
- 石獅子見聞録…………… 21
与那原町与那原

●表紙写真
沖縄の海と島と空の「やすらぎ」をテーマにした写真を
紹介します。
8月号表紙写真【黒島】
カメラマン：北島 清隆 <http://k-kitajima.net>

■ 沖縄県広報誌「美ら島沖縄」について ■

沖縄県広報誌「美ら島沖縄」は、県の行政についての情報や、
県内各地域の情報をわかりやすく県民のみならずにお伝えす
る冊子です。
公共機関や学校、銀行、病院など多くの方が利用する施設でご
覧になることができるほか、沖縄ファミリーマートの店舗で無料
配布しています。

沖縄県広報協会(県広報課内)TEL:098-866-2020

沖縄写真館

一九五〇年代その② 都市の復興と暮らし

第二次世界大戦の終了から六十
今年、本誌では戦後から一九七二年五月
十五日の沖縄の日本復帰までの様子を
写真を中心に紹介します。
沖縄県公文書館の協力の下、戦後の
沖縄を明るく、たくましく生き抜いた
人々の様子を年代順に紹介します。



年末の那覇市街 1957年

平和通りから大越百貨店(現在の沖縄三越)
を撮影(琉球政府関係写真資料 044098)



石垣移民団 1956年

那覇丸で石垣島へ向かう人々。1948(昭和23)年から1957
(昭和32)年までの10年間で、3,306人が移住しました。
(琉球政府関係写真資料 058542)

空襲で廃墟と化した那覇も、一九五〇年
代には復興の兆しを見せ始めました。戦前
湿地が広がっていた県道は、一九五三年か
ら四四年にかけて改修された後、「国際通
り」として映画館や各種商店街が立ち並ぶ
繁華街に発展し、「奇跡の二マイル」と呼ば
れるようになりました。また、国際通り中
心にあるガープ川一帯も、戦後は闇市場、
テント小屋が立ち並び公設市場を経て「平
和通り」に生まれ変わり、周辺の市場とと
もに一大商業地域を形成していきました。

土地のほとんどが基地として接收され
た越來村は、一九五六年七月、コザ市に名
称を変え、米軍人相手のテイラー、レスト
ラン、不動産屋などが並ぶ賑やかな街へと
変わっていきました。
しかし、これらの地域は、県民の基地に対
する抗議が高まると、米軍が制裁的に宣告
するオフリミッツ(立入禁止)の経済的影響
を真っ先に受けるため、常に社会情勢に左
右される状況にありました。

一方、接收された土地が米軍基地の滑走
路に姿を変えると、その周辺では都市化が
進みました。
当初は、大宜味村や宮古島からの開拓団
が主でしたが、一九五〇年代に入ると、米軍
の基地建設によって土地を失った人々が移
住者の大半を占めました。開拓事業は、マ
リアアで命を落としたり、食料不足に陥る
危険もあり、移住者たちは苦勞を強いられ
ました。

沖縄では、戦後の混乱が落ち着くと、本
土や海外からの引揚者や復員兵の帰還に
よる急激な人口増加が社会問題となりま
した。
その解決策の一つとして、一九四八年から
八重山開拓事業が行われました。



コザ市役所 1960年12月

この庁舎は、1958年に胡屋(現在のコザ
社会保険事務所付近)に建設されました。
(琉球政府関係写真資料 045505)



コザ市の街並み 1960年12月

英語の看板が入り交じるセンター通り
(現在のパークアベニュー)
(琉球政府関係写真資料 045509)



基地で働く住民 1956年7月

嘉手納基地内の住宅建設工事で石を運ぶ地元
の女性たち (基地建設関連写真 342J-91255AC)

このコーナーの写真の使用・転載など
につきましては沖縄県公文書館
☎098-888-3875
までお問い合わせください。

